

岐阜高専機械工学科 機関誌 『機巣』2022年 Vol.23

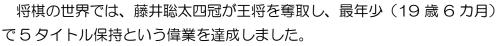
目次			
P-2	目次 & 会長挨拶		
P-3	機械工学科現状について	山田 実	(24期生)
P-4	高専祭専門展と研修旅行	宮藤 義孝	(4M 担任)
P-5	僕の高専ライフ	髙田 崇天	(専攻科1年)
P-6	OB 紹介シリーズ 「起業家になった同級生」	村手 雅子	(7期生)
P-9	"若鮎の並木"の草引きのご案内	若鮎会「若鮎の並木」保存会	
P-11	編集後記		

会長挨拶

飯沼義徳 7期生

少し日が長くなり、春の陽気を感じる季節、何やら春らしい心持ちになってきました。今冬は岐阜県内も積雪が多く、奥美濃のスキー場は例年より活気があったのではないでしょうか。会員の皆様におかれては健やかにお過ごしの事と拝察します。

新型コロナウィルスのオミクロン株が蔓延し、生活様式、活動が制限される中ですが、令和4年になって明るいニュースもいくつかあります。





北京冬季五輪では、出場した岐阜県勢の堀島行真さん(スキー男子モーグル)、村瀬心椛さん(スノーボード女子ビッグエアー)、永井秀昭さん(ノルディックスキー複合男子団体)の3選手が銅メダルという快挙を達成というとても嬉しいニュースがありました。

また、カーリング女子のロコ・ソラーレは銀メダルを獲得しました。私はセカンドの鈴木夕湖さんが旭川高専の卒業生と知って、とても親近感が湧き連日応援をしていました。日本は、冬季五輪のメダル獲得数が過去最高になりましたが、関係者そしてご本人の並々ならぬ努力の賜物であると思います。そして、競技後のアスリート(勝者及び敗者)の素晴らしいコメントには感心するばかりです。テレビ観戦ではありますが、感動、勇気、素晴らしい刺激をいただき、とても楽しい時を過ごしました。あらためてアスリートの皆さんに心より拍手、感謝です。

先日、機関誌「機巣」の取材で同窓の村手雅子さんが経営する恂村手エンジニアリング様を訪問して元気をいただきました。同じクラスで5年間を過ごした同窓生との縁は、私だけでなく会員の皆様にとっても大切なものであると確信しています。機巣会がその一助になることができれば幸甚です。

機巣会も設立 40 年を迎えましたが、今年度開催予定でした機巣会設立 40 周年記念パーティーが 残念ながら開催できず誠に申し訳ありません。何とか 2022 年度には開催したいと考えています。

将棋の世界、スポーツ界では若い世代が大活躍をしています。機巣会においても、若い世代の皆様に多数参画していただけるようにお願いすると同時に引き続き会員の皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

新型コロナウィルスが早期に終息することを祈念し、皆様が益々ご健勝であることを心から祈念いたします。

機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

1月に入って新型コロナウイルスの感染が拡大し、岐阜高専でも1,2月で学生、教職員の中から20名弱の感染者が出ました。幸い、一部遠隔授業となりながらもなんとか期末試験、卒業研究発表会を終えることができました。

1月に佐藤敦先生が着任されました。挨拶の文章をいただきましたので、下記に掲載します。

【新任教員からのご挨拶】

令和4年1月に機械工学科の講師に着任した佐藤 敦です。着任までの略歴を以下に示します。

- ①香川高専(高松キャンパス)の専攻科を修了 ⇒ 大学院へ進学
- ②大学院の修士課程を修了 ⇒ 電力会社に就職(火力発電所に勤務)
- ③電力会社を退社 ⇒ 大学院の博士課程へ入学
- ④大学院の博士課程を修了 ⇒ 本校に着任

着任前の学生時代、人並みに海外の学生(中国及びドイツ)と交流できたと考えています。また、スキューバダイビングや一人海外旅行などにチャレンジしました。そのなかで、以下を感じました。

•閉鎖的でありながら恵まれた国である「日本」

※中国の学生は漢字で読み取れますが、ドイツの学生は缶コーヒーに砂糖が含まれているかどうかも知ることができません。しかしながら、アニメや治安に好印象を持たれます。

•沖縄の透明度 25m を誇る海に驚かされる一方、サンゴがほぼ死滅しているなど環境問題が深刻

私の経験は、世の中全体からすると本当に埃のようなものです。学生が興味を持つきっかけとなることを願いながら、授業でそれらをお話しできればと存じます。



中央の白いシャツが本人

高専祭専門展と研修旅行

機械工学科 4 年担任 宮藤 義孝

10 月23日(土)と24日(日)に第57回高専祭が催され、高専5年間で思い出に残る高専祭専門展が行われました。今年度はコロナウイルス蔓延防止の観点から学内者だけでの実施となりました。学外の皆さまへはYouTubeを用いて実況が配信されました。今年度の機械工学科4年専門展の内容は、「永久機関に関する歴史」「実際に作製した永久機関の展示」「永久機関が不可能な説明」を行いました。専門展数週間前に遠隔授業となってしまい、登校不可の中、2名の学生が中心となり、音頭をとってくれました。一番辛かったことは、設計が完了したにも拘わらず、遠隔授業となってしまい、製品加工ができない、という状況になってしまったことです。このままでは製作が間に合わない、と誰しもが思いましたが、1週間前に対面授業が実施されることとなり、放課後から夜9時まで残って加工をし、やっとのことで製品を完成させました。その時の皆の一致団結とチームワークは本当に技術者そのものと感じました。残念ながら賞はいただけませんでしたが、一番大切なものづくりの本質を学んだことと思います。





次に、11月9日(火)に日帰りの研修旅行に行きました。コロナウイルス蔓延防止の 観点から工場見学が不可と考えられました。12社にお願いをしたところ、11社が不可 という返事で、厳しい状態でしたが、なんとか1社にご快諾していただき、工場見学が 可能となりました。その1社は伊賀のDMG森精機社で、実際の工作機械製作工程を見 学し、本校機械工学科OB2名からの説明とレーザー溶融積層加工(金属3Dプリンター)

など最先端の加工技術を 知りました。その後、強 風のため、御在所岳に登 ることはできませんでし たが、今後の進路や人生 の良い思い出となる有意 義な研修旅行でした。



僕の高専ライフ

専攻科 先端融合開発専攻1年 髙田 崇天

この5年間は、思い返すと新しい経験や出会いがありました。

1 年生からラグビー部に所属し、全国大会に向けた厳しい練習を毎日のようにしていたのは記憶に新しいです。部活に所属していた中で3回高専大会にも出場し、スクラムの最前列で相手と競い、ぶつかり合う熱い試合を繰り広げていました。おかげで、強靭な肉体と精神力を得ることができました。

3 年からの専門授業や実習では、勉強の難易度やレポートの数に翻弄される日々でしたが、その分専門知識や新しい発見をすることが多かったです。

実習では、旋盤やフライス盤などを用いた材料加工や、鋳造や溶接など手作業での製品作成を行いました。また、工場実習でコンプレッサーを作った際に寸法をいくつか間違えてしまい何度も部品を鋳造から作り直したのは苦い思い出です。これらは、今後経験する機会がほぼないことが多いので、貴重であると同時に機械加工の学びを深めることにつながりました。

専門授業では、技術士として必要な汎用的能力や、社会で働く上で必要な思考能力を鍛えました。例えば、機械設計法では物体の運動をモデル化により数式により表現する方法について学びました。授業でのテストや課題は、非常に辛く長い間考えないと解けないような問題が多かったですが、その分粘り強く問題と向き合う精神力が鍛えられました。

4 年からの研究活動では、学内や学会での活動を含め様々な場面で発表及び質疑応答を 行うこととなりました。その際に、自分の意見をうまく言えなかったり質問に答えられなか ったりすることがあり、その度に自身の未熟さを再確認する日々でした。この失敗を活か し、自分の意見をうまく伝えるにはどのような資料を作成すべきか、どのような話し方をす べきかをよく考え試行錯誤することで、人に伝えることの重要度、そのコツなどを学ぶこと ができました。

私は、専攻科も含めて 6 年間高専に在籍していることになりますが、ここで得てきた知識や経験は今後大学院に進学した際や、社会で働く上でも必ず役に立つ日が来ると考えています。

OB紹介シリーズ

起業家になった同窓生

有限会社 村手エンジニア

代表取締役 村手 雅子(7期生)

OB を紹介するために企業家(起業家)を訪問取材してきたいと思っていたがコロナ禍もあり暫く途絶えていた。今回、機巣会の飯沼会長の紹介で同級生の村手雅子さんが会社訪問に応じていただいたので、愛知県豊川市まで会長とともに同行した。村手さんは、社内恋愛で知り合ったご主人様が起こされた設備エンジニアリング会社の2代目社長である。

ー会社経営にいたる道のりは?

昭和49年に岐阜高専を卒業した後、新東ダストコレクター(株)(現 新東工業(株))に入社しましたが、同社での仕事内容は営業の為の見積図面を描くことでした。私は設計をやりたかったため3年で新東ダストコレクターを退社して岐阜の設計会社に転職しましたが、結婚を機に自宅で製図板を購入してアルバイトを始めました。その後の出産、子育て中に、豊川のユタカ設計(株)に入社して機械設計の経験を積ませてもらいました。部品図や見取図を一杯書いたものです。

この頃、主人(初代社長)が新東ダストを退社 して独立しましたので、昼間はユタカ設計に勤務、 夜は主人の仕事、というように掛け持ちで仕事を しておりました。しかし、この状態は苦しくなり ユタカ設計を退社して夫婦 2 人だけの会社がス タート。ここからが経営者の始まりということに なります。

お客様から工事代金として受け取った手形の 処理が分からず、期日までずーっと金庫にしまっ ておいたことがありました。期日当日に取引銀行 に持ち込んだら取り立てに間に合わず笑われま したね。お客様には事情を説明して再発行しても らいましたが、笑い話で済んでよかったです。



会社看板と全社員(右二人が村手社長夫妻)

最初は、愛知県新城市で工場を借りておりまし

たが、騒音などのクレームもあり、240 坪ほどの土建屋のヤードを購入しました。これが現在の平 尾工場(主力工場)です。(ちなみに、登記上の本社は自宅。今でも設計は自宅でやります。)

-会社を経営してから感じたこと、苦労話を聞かせてください

私たち夫婦は、それぞれ得意な事を分業して経営にあたりました。主人は営業、私は受注後の設計、部品手配、工事手配というように。私は、営業(見積)は苦手ですね。特に関西の業者は価格に厳しく、相当値切ってきます。そういった事は主人(社長)に任せ、私は好きな設計に励んでおりましたが、2005年の社長の交通事故をきっかけに翌年に社長を交代しました。社長業、16年目になります。

中小企業はどこも資金繰りに苦労していますが、うちも例外ではありません。2009 年のリーマンショックの時は苦しかったですね。毎月、もう会社を畳んだほうがいいと、ずーっと言われ続けましたが、助成金で何とか繋いできました。

ー今の会社に欲しいものは?

即戦力となる人材が欲しいですね。不足している中堅がいればなー、と思っています。昨年まで 60 歳くらいのベテランがいましたが、定年になったこともあり退職されました。ある程度の技能承継はしてもらいましたが、今の工場は若い人ばかりです。人物、信用を重視していますので、求人サイトは使わず、主に口コミや紹介で採用をしております。

- 高専時代の想い出話や役に立ったことは?

私は高専を愛しているんです、母校愛というものでしょうか。これはおそらくクラスの中で、紅 一点で大事にしてもらい、同級生(7 期)では誰も留年せず仲良くしてくれた、ということがある のでしょう。

卒研は金属材料研究室に所属していましたが、卒業後の人生には、指導していただいた永井/橋浦両先生の影響が大きかったと思いますし、卒研の研究仲間が良い友人ばかりで、濃い時間を過ごせたと思っております。こうした環境を過ごしてきましたので、ヘルメットで現場に立っても違和感が無いのでしょう。

- 将来、この会社をどのようにしていきたいですか?

4年ほど前になりますが、自分でも会社を経営していた類沢さんに、将来の社長含みで来てもらいました。現在は営業を担当してもらっていますが、事業承継については相談中です。私が 71 歳か 72 歳のときになるか...

一是非とも、後輩に一言を!

私はトップの想いや理念を皆に伝えたい、と思ってきました。これからどうしたいのか、町で一番になる、業界で一番になる、などなど。京セラを創業された稲盛和夫さんの京セラフィロソフィーは常に頭に置いています。私がこれからうちの類沢に伝えたいことは後輩に一言にもなるかと思うのでお伝えします。

まずは心身共に健康であること、社員のことをよく 見ること信じること感謝することがあること、お客様 と対等に話せるだけの人間になること、公私共に楽し みをみつけること、未来を信じること、会社の 7 つ の指針を心掛けること(HP に記載)



左から飯沼会長、村手さん、筆者

- 社長を交代したら何をやりますか?

現在、村手エンジニアが所属している豊川市の音羽商工会に個人事業主として所属して、別会社を起業したいと思っております。もちろん、事業内容は大好きな機械設計です。すでに会社の名前もいくつか考えているんです。MM テック、雅テックなど。考えるのが好きで、すぐにスマホにメモします。

会社のホームページ





一取材を終えて

村手さんの工場は、高速道路わきの閑静な山林の中にあります。工場内には製作中の集塵機のダクトが置かれており、溶接とハンマーの音が響いていました。筆者の現在の会社が、(村手さんが新卒で入社された)新東工業さんと取引があることもあり、村手エンジニアさんの事業内容には、個人的にとても親近感があります。取材後、本社のある自宅を案内してもらったとき、「ここで設計をやっているの」という村手さんの笑顔は、生涯機械設計エンジニア宣言に思えました。

(文責:中尾)



本社(自宅)で設計する村手社長と工場全景







取材後、近くの豊川稲荷に参拝



令和4年2月吉日

若鮎会の皆様へ

若鮎会「若鮎の並木」保存会

"若鮎の並木"の草引きのご案内

新型コロナ感染の中、外出もままならぬ毎日ですが皆様はいかがお過ごしでしょうか? 岐阜高専創立五十周年を記念して、若鮎会が平成27年3月に木曽川河畔にヤマモモの木を 植樹、翌年に「若鮎の並木」と命名し記念碑を設置、いずれも多くのご参加を頂き誠にありがとうございました。木々は順調に成長しておりますが、並木をよりよい姿にしていくため、毎年並木の草引きを行い、昨年までに90名近い多くの参加を頂き感謝申し上げます。

今年も下記の要領にて並木の草引きを計画いたしました。ご多忙とは存じますが、御参加の可否を3月21日までに連絡担当者へご連絡頂きますようお願い申し上げます。

なお、年齢的な要素も影響しているようで、参加者の多くは1~3期ですが、桜の季節に 学年や科を越えて顔を合わせることも同窓会活動の一環として意味があるように思えます。 どうか皆様、世代を越えてお声がけをしていただきますよう、お願い申し上げます。

記

日時: 令和4年3月26日(土)午前10時より 1時間程度

場所: 「若鮎の並木」記念碑前集合 少雨決行

連絡担当: M科三口・岩井 E科高津・奥野・坂井 C科坂井 A科坂井

持ち物: 手作業の草引き道具&雨カッパ(小雨時)

支給予定品: 手袋、ビニール袋、お茶

駐車場: 添付の地図参照(昨年と同じ場所。記念碑まで徒歩数分)

追伸:

「若鮎の並木」保存会につきましては、植樹並びに記念碑設置時にご参加頂いた方々を中心メンバーに、三口栄一(M1)、高津正吉(E1)高崎豊(C1)岩井静克(M2)の各氏を発起人とて「若鮎会」に設立を申請し予算執行を含め承認されております。

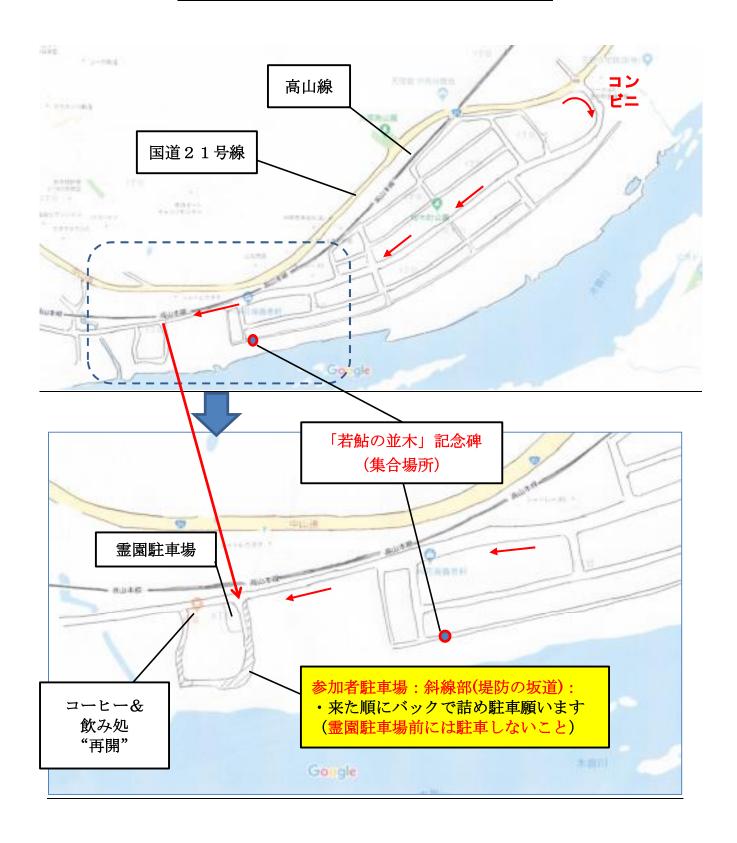
お問い合わせ先

保存会事務局担当 三口 榮一(M 0 1)

T E L 0 9 0 - 9 9 1 5 - 2 7 1 2

メール <u>chiaki600907@ybb.ne.jp</u>

「若鮎の並木」の草取り時の駐車場の案内図



以上







編集後記

編集委員

6M



平和な日本で長く生きてきましたが、最近の世の中は不安で一杯です。 夕食時のビールが一番うまいと感じる時が幸せなひと時です。 ゴルフのスコアがどうだとか言えるのは幸せですよね。 ジョギングも続いていますので、体力はまだ大丈夫です。

15M

中尾腎治



久しぶりに OB 訪問に行ってきました。リアルの取材を行うと、きっと苦労された OB の思いも伝わるだろう、と信じて原稿をまとめました。早くコロナが収束して、毎回 OB の声をお届けできるようにと願ってます。

24M



今年度から外部連携の仕事をする役職についています。他高専の取り組みや話を聞くと、岐阜高専はOBと現役学生が交流する機会が少ないなと感じてしまいます。OB講演会や就職でのOB訪問などはありますが、なんとか機会を増やしたいです。

52M 小林 光希



雄志寮生ならわかるのあの指導の厳しさ。ところ構わず機関銃のように挨拶していたあの頃が懐かしく思えます。社会人になった今、叩きこまれた "それ"が活きている気がします。 気のせいかもしれませんが。



9M 若井政伯



31M 堀口英樹



33M 伊藤友裕(海外特派員)

編集委員 募集

機関紙作成の協力していただける方を募集しています。原稿の校正、記事の構成が主な作業です。発行前に打合せをします。主にメールで作業しています。

興味のある方は太田までメールください。 tetsuya-ota@core-cprp.jp

発行日/2022年3月11日

責任者/飯沼義徳 発行/岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巣会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343

FAX 058-320-1349

http://gifu-nct.com/